

一瞬先は、イノチ命いのち

— 天空の火祭 (ひまつり)
@鬼の城・岩屋周辺 (岡山県総社) —



とろん

どちらにしてもいつかはどこかで、あ!!と逝ってしまう儚いヒトの(イノチ)なのに、人間はこの世の果ての直前まで、善悪美醜上下左右を超えて(命)の炎を輝かそうとする。タイ北部の桃源郷PAIで生まれたボクらの村(ムーンビレッジ)での108日間の祭りでは、火打石で起こした火を大木に移し、108日間その火を絶やさないで、その火で暖をとり料理をし夜の灯火としていた。108日間の積み重ねた沢山の灰の一部を日本に持ち帰り、今、ボクを育て抜いて逝ってしまった父と母とおばあちゃんたちの遺影が飾られている仏壇の線香立てにしている。連続と続いてきた(いのち)の連鎖の最先端に翔ばされているボクの(イノチ命いのち)が、64歳の今、生まれ故郷の岡山で発見した新天地(鬼の城)で再び渦巻き始めている。

中越大地震で生まれ育った家が全壊し、冬に成る前に日本から逃げて常夏のタイへ旅立った新潟県長岡の女(ひと)とあ!!と遭遇し、その女神と(三度目の正直)で結婚し、3人の子の父親になってしまったボクからすると、中越大地震で起きた(イノチ命いのち)の連鎖が今も続いている。そして、2011年3月11日の大震災以降、放射能から逃げて岡山で(新天地)を探し求めている沢山の(移住組)の人たちの中、帽子作家の麻由(まゆ)さんというもう一人の女神と遭遇した。彼女はボクらの新天地(鬼の城)に空飛ぶ筈に乗ってやってきて、ボクの耳元で魔法使いのように囁いた。

とろんさ〜ん、私、今年の中秋の名月前後に(鬼の城・岩屋)辺りでなが〜い(火祭り)をしたいんだけど。何も決めないで、あ!!と(ひとり)でに 勃起展開してゆく即興の祭り。

突如とボクの前に登場してきたその魔法使い、女神の囁きに、あ!!とボク的全細胞が感応し、う!!と祭りの始まりの日と終わりの日が天から降りてきて、ん!!!とボクの中の(いのち)が疼き湧きふくらみ始めた。

— 天空の火祭 (ひまつり) @鬼の城・岩屋周辺 (岡山県総社) —

2015年9月11日(金)~10月12日(月)の一月+α

標高400メートルの鬼の城の麓に(砂川公園)という美しいキャンプ場が在って、子どもたちが一日中あそべる天の国。ここをベースにして、ボクらの天空のなごみ茶屋(太一や)を抛り処にしながら、鬼の城・岩屋周辺の山歩きをしてゆく祭り。そして、総社・岡山のアチコチの(聖地)を縁が起きて巡り歩く祭り。その昔、この山々は山岳信仰の修験者たちが2000人も3000人も棲みついていた天空の(聖地)で、山中に歩き入ってゆくと、その太古から連鎖する気配を強く感じ、今だに大本の(イノチ命いのち)が深く息づきボクらを突き動かしてゆく。

古い神社の石の鳥居が倒れていたり、奈良平安あたりの古い瓦が散らばっていたりする中、村人に見捨てられていた(山王宮)という神社が在って、とにもかくも、9月11日(金)にその瀕死の神社で鬼の城の石で火起こしをし、一ヶ月間の火祭(ひまつり)が始まる。そして9月27日(日)に中秋の名月が浮上し、祭り最終日イブの10月11日(日)には、今、縄文焼きアーティストとして世界中から注目されている(猪風来)いふうらい、氏の主宰する第21回目の秋の(縄文野焼き祭り)で『縄文の炎コラボ・パフォーマンス』というタイトルで(フリーマイク)(フリーステージ)がボクらのために用意されている。ボクのホラ貝を合図に猪風来氏作の六つの縄文太鼓のリズムが入り、野焼きの炎のふくらみと共に、笛、鐘、火の舞い、ディジュ、ジャンベ、祝詞、フリーダンス、などの(イノチ命いのち)が即興で感応交差展開してゆく。

ボクの人生の後半に決定的な影響を与え、インドからタイのムーンビレッジに向かわせてくれた恩人、女神、今、日本のヘリ、恵那の近くの山中に棲む火巫女(ひみこ)「ACHICO」もこの日、火の舞いに登場し、火祭(ひまつり)最終日の10月12日(月)に、標高330メートルの天空のなごみ茶屋(太一や)で、女神たちの(ピーナスミーティング)を開くことが決まっている。

(いいだしっぺ)の魔法使い、女神(麻由)まゆさんからのひとことを!

風をおこして氣をとおす そしてそこには陽があたる

和多志は日常の祈り(所作)によって風とともに暮します。鎌をもつとき鍋をもつとき言葉を交わすとき何かとふれあうとき、その時々ともに風はあります。風とは生きる息吹そのものであるように、風のおった道には澄んだ空気・氣が流れこんできて、和多志に生きる元の氣・基の霊を湧かせてくれます。わたしは陽のごとく三十六度の熱を持ち生きています。

ひは和多志の核にあたります。つよさ、きびしさ、時に強く押さえつけられるようなオモイを感じたとしても大丈夫、そこにも不安やおそれはありません。やさしくあたたかくしずかにそっと、それぞれの核から、火は灯ります。わたしはただあるようなものであって、それらは感じるもの、感じているだけのようで、実は和多志自身がそれそのもの。ひとひととひとつつなり。

2010年、ひだ位山の風おこしから五回目秋。晴れの国おかやま、と呼ばれるここ基霊(きび)からすべてのスピリットとともに、ひをともします。はじまりは米、おかやまはひのとりだぞって言葉。湧きおこる必然の数々はつづく... keep on work & smile♪それだけのこと...

9月27日中秋の名月。
桃太郎伝説の鬼(生陽うら温羅)とお月見
和多志の生陽のひの魔つり
なんでも持ち寄り、お月見の仕度。

YOU ARE WELCOM &
YOU ARE WELGO!!
とろんより、(イノチ命いのち)を!!!